

障害者・家族生活一変

新型コロナウイルス感染が拡大する中で、障害のある人と家族の生活は一変しました。ハイリスクといわれる障害者を自宅でケアする家族の苦悩は。

(岩井亜紀)

「重い自閉症と知的障害 ことがある鷹人さん。入院がある息子は、マスクの扱 いも手洗いもきちんでき ません。新型コロナウイルスに すれば、ベッドに拘束され ることになると思います」

24時間の見守り

自宅に戻った1週目の鷹人さんは、日常生活がガラリと変わり、「とっってもメンションが高かった」と三耶子さん(32)は、2週目は機嫌が悪くなり、3週目は表情が乏しくなったといいます。

「作業所を休ませることには不安はありましたが、コロナり患の不安の方が強かった」言葉がなく、パニックになると自傷や他害にいたる

言葉がなく、パニックに

なると自傷や他害にいたる

いまでは週2回、ヘルパー

疲労困憊、長く続けば破綻も…

と1時間の散歩で気分転換しています。が、ときどき激しい自傷が出てしまいました。

三耶子さんと夫(69)も疲労困憊(こんぱい)しています。水をたくさん飲みすぎる鷹人さんが、嘔吐(おうと)や意識障害などを引き起こす「水中毒」にならないよう24時間の見守りが必要だからです。

三耶子さんは「息子がベ

ッドに拘束されたときのこと

を思い出して頑張っています。とはいえ今後も長く続くような生活は破綻してしまつ」と苦悩を浮かべます。

唯一の楽しみも

重度心身障害者にとつて新型コロナウイルスは脅威です。気管支が閉じてしまつた

管軟化症の進行で人工呼吸器を装着する30歳の女性

は、堺市の通所施設を週2回利用していました。緊急事態宣言の4月7日以降、施設側から「できるかぎり自宅待機を」と要請され、

「唯一の楽しみも我慢せざるを得ない状態」です。週3回訪問入浴を利用。

看護師とヘルパー3人がかわります。母親(53)は「みなさん気をつけてくださっています。母親(53)は感染者が出たらどうしたらいいのかわからないのか。何もできない娘

後毎回、ドアノブと床を消毒してはくれますのか。不安が毒します。大変です」と話 暮るばかりです」



週末に一時帰宅したときに、動画を楽しむ大澤鷹人さん(2月、堺市(大澤さん提供))